

日本ビオトープ協会 2017

# ビオトープ No. 40

特集「ビオトープを活かした生態系インフラ」



アオサギの親子  
(北海道旭川市江丹別町)  
写真 内海 千樫 氏 提供



特定非営利活動法人

日本ビオトープ協会

## 巻頭言

ビオトープを活かした生態系インフラ

涌井 史郎(雅之) ..... 1

## 特別寄稿

生態系インフラがめざすこと

ー生物多様性・レジリエンス・持続可能性ー

原 慶太郎 ..... 2

## 会員・BA等投稿

地球環境にやさしい低燃費な

「ハイブリッド・山辰サイフォン」実証実験報告

馬淵 和三 ..... 6

茨城県北芸術祭 出展作品「ノア・バス」制作提案協力

砂押 美紀子 ..... 8

## 会長挨拶

協会誌40号を迎えて

櫻井 淳 ..... 10

## 協会活動状況

各地区委員会(8地区)活動 計画・報告等

／協会活動 総会・フォーラム報告

各地区委員長／協会事務局 ..... 11

第9回ビオトープ顕彰 委員長講評・各賞紹介 ..... 15

## シリーズ連載

ビオトープのいきものたち ーその26ー 秋のビオトープの主演・赤とんぼ

神垣 健司 ..... 18

## 連載コラム

「ビオトープを知る、五つのヒント」 その1 適地適食:食植者を知るべし

立川 周二 ..... 20

## ◇表紙・裏表紙写真の説明◇

本号の表紙写真は、裏表紙写真ともに、幌加内町の内海千樫氏がご自宅のビオトープ、他で撮りためてきた生き物写真の中からお提供頂きました。

・表紙:アオサギの親子は旭川市江丹別町で撮ったものですが、幌加内ビオトープの隣の林にもコロニーがあります。写真の、一番早く生まれた雛は孵化後10日目です。

・裏表紙:カタクリの群生は、春に北海道深川市にある円山公園全体がカタクリの花に覆われます。

◇内海千樫氏:北海道 幌加内ビオトープ研究会代表、日本ビオトープ協会会員。1978年より幌加内町在住。現在、北海道ネイチャーマガジン「モーリー」(北海道新聞社)で「アオサギの悲哀」を連載中。2017年6月に写真集「蒼鷺」(共同文化社)が出版されました。動物写真家であり、動植物・昆虫などの写真撮影を通じて、その生態観察は欠かせず長年研究を続けてこられ、ビオトープに地道に取り組んでおられます。

